



野比中だより

絆 きずな
—響き合いを大切に—

横須賀市立野比中学校

〒239-0841

横須賀市野比4-4-1

tel:046-849-3318

Fax:046-849-3791

自信をもって

FIBAバスケットボールワールドカップ2023が、フィリピン(マニラ)、日本(沖縄)、インドネシア(ジャカルタ)で開催されています。日本代表のゲームはテレビ放映がありました。多くのニュースや情報番組でも特集が組まれていたので、日本代表である河村選手や渡邊選手をはじめとしたみなさんの活躍ぶりについて、野比中生のみなさんも、多少は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

そうした中で、今回は日本代表男子チームのトム・ホーバスヘッドコーチ(監督)の言葉について考えてみたいと思います。

ホーバス監督は東京オリンピックの際には日本代表女子のヘッドコーチをしており、バスケットボールでは初めて準優勝・銀メダル獲得に尽力したとして、脚光を浴びました。その後、今は男子チームのヘッドコーチとしてワールドカップに臨んでいたわけです。

試合中のタイムアウト時に激しくも選手を鼓舞するような声かけが話題になっているホーバス監督なので、毎試合後にはその試合でホーバス監督がどんなことをタイムアウトで話したのか話題になります。

今回、私が印象に残ったホーバス監督の言葉は9月2日に行われた試合中の「自信をもって(シュートを)打って」「自信をもってトライ」という言葉です。

9月2日は、勝てば48年ぶりに自力でのオリンピック出場がかかる大切な試合で、対戦相手はアフリカの島国の一つであるカーボバ

ルデ(私は初めて聞いた国でした)との一戦でした。前半は日本ペースで試合が展開し、50:37とリードして終了しました。ところが後半カーボバルデに8連続得点を許し、第4クォーターに5点差と迫られ、残り3分38秒でホーバス監督はタイムアウトを取りました。

いつもなら怒鳴り声(?)の激しい言葉でのゲキがとぶ場面ですが、今回は違ったのです。私もテレビ中継を見て「あれ?」とつぶやいてしまったほどです。肩で息をする選手たちに、静かな声で「自信をもって打って!」「自信をもってトライ!」と諭したのです。

思い返してみると、ホーバス監督は試合中に選手たちに「信じて」という言葉をたくさん使っています。「自信をもって」とは「自分を信じて」ということであり、「自信をもって」何かに取り組むということは、それまでの自分の取り組みがあって、今の自分があるということなので、その取り組みがしっかりしたものであれば、「自信をもって」=「自分を信じて」トライしていくことなのだと感じました。

さて、みなさんの生活を思い返してみてください。9月の末にはノビオリンピックが行われます。この先、1・2年生であれば合唱祭がありますし生徒会選挙もあります。3年生にとっては進路が大きなウエイトを占めます。

これから訪れる様々な行事や出来事に対して、みなさんが「自信をもって」取り組むためには、その準備段階でみなさんが仲間と力を合わせてしっかり取り組み、「これだけやったんだからもう大丈夫!」といえるようになって

た時、「自分を信じて」トライできるようになるのですね。更に言うと、その時、仲間や家族への感謝の気持ちが重要です。周りを見回してみると、必ずみなさんを支えてくれたり、応援してくれたりする人がいるはずなのです。「自信」と「感謝」が大切です。

働く喜びとは……？

8月末、あるテレビドラマで「大日本チョコレート」という架空の企業での出来事が描かれました。

このチョコレートを製造している企業は、実は神奈川県川崎市に工場を有する「日本理科学工業」という実在している企業がモデルになっています。野比中学校でも使用している「ダストレスチョコレート」を製造販売している企業です。

「ダストレスチョコレート」は年間20万トンも廃棄されるホタテの貝殻を再生活用し、世界で初めてチョコレートに配合したとされています。

また「日本理科学工業」は障がいのある方にとって働きやすい企業であることでも有名です。冒頭で紹介したテレビドラマも、そうした企業での取組を多くの方に知っていただく内容だったと思います。

この企業で障がいのある方を初めて採用するときに、ある禅寺のお坊さんから「人間の究極の幸せ」について教わったことがあるそうなのです。私はドラマを観ていて、ぜひ野比中のみなさんにもそのことを知ってもらいたいと思って、今回の記事に記してみたいと思います。

この禅寺のお坊さんから教わった「人間の究極の幸せ」とはどういうことかという、以下のことなのだそうです。

- 一つ目は愛されること、
- 二つ目はほめられること、
- 三つ目は人の役に立つこと、

四つ目は人に必要とされること
という四つです。

日本理科学工業は、会社設立は昭和12年(1937年)ですが、障がいの雇用は昭和35年(1960年)に二人の障がいを雇用したのが最初なのだそうです。企業として、障がいのある方が、いわゆる福祉施設で大事に面倒をみてもらうことが幸せではなく、一人の人間として働いて役に立つ会社こそが人間を幸せにするのだと考えたそうです。

障がいがあるとかないとか、そういうことは関係なく、この四つのことを振り返ってみると、私にはみなさんがこの野比中学校で学びを深めていくためにとても大切なことのように感じました。

例えば、九月の末にノビリピックが開催されますが、そうした行事でみなさんが生き生きと活躍できるときはどんな状態にあるでしょう。それはクラスやカラーの中でみなさん一人ひとりが、周りの仲間から「愛され」「ほめられ(認められ)」「人の役に立ち」「必要とされている」状態なのだと思うのです。

四つの約束

ところで日本理科学工業が障がいのある方を雇用するときに、本人と四つの約束をするそうです。

- 一つ目は「返事をしっかりすること」、
- 二つ目は「自分のことは自分でできること」、
- 三つ目は「周りの人に迷惑をかけないこと」、
- そして四つ目は「一生懸命できること」。

これもよくよく見てみると、とても大切なことですね。みなさんが仲間から信頼されるための最低限の約束に思えてならないのです。

ノビリピックまで四週間。日本理科学工業の「人間の究極の幸せ」と「四つの約束」。ぜひ意識して取り組んでみてください。

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり